

総務大臣表彰 NPO 法人子ども大学かわごえ

平成20年に設立した子ども大学かわごえは、活動内容が地域への愛着へつながることや年々受講生が増えていること、子ども大学の先駆けのモデルとなる特色ある取り組みであることなどが評価され、総務大臣表彰を受賞しました。

「基本理念は、子どもの好奇心に応えること」と、子ども大学理事長・酒井一郎さん。私立大学で教えていたころ、学生の発想力やコミュニケーション力を鍛える必要があると感じていたそうです。そんな時、子どもの知的好奇心を育てる子ども大学という取り組みがドイツで行われていることを知り、自分の住む川越でも行おうと有志と共に NPO 法人を設立。当初から運営に携わる子ども大学学長・遠藤克弥さんは「初めは子どもが集まるか心配でしたが、予想を上回る参加者数に、学びへの関心の高さを感じました」。



「学ぶ楽しさを知らせて、来への夢を膨らませたい」と酒井さん

小学生を対象に学校では習わないような課題を専門知識のある大学教授などが講義します。「なぜホタルとさかなは面白いのか!」をテーマにした授業では、小畔川など地元の川を題材にし、子どもたちの興味を引き立てます。市制施行90周年行事として行った授業では、「東京スカイツリーのヒミツ」と題した講義を行うなど、時の話題に即した内容も。「今後は、聞くだけの受け身の講座だけではなく、フィールドワークや討論会など自ら行動する内容も行ってきたい」と酒井さんは話します。



「今年のミニかわごえ。ネイルサロンは女の子に大人気」

毎年3月には子どもたちが自分たちでまちを作る「ミニかわごえ」が行われます。今年は、3月16日(土)・17日(日)、午前10時〜午後4時、蓮馨寺で開催。当日参加も可能です。詳しくは酒井さん ☎080-2053-2991 にお尋ねください。



行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸ある寺

ひとまち

福原中学校に出張美術館がやってきた!

2月16日・17日、福原中学校で出張美術館が開催されました。ルノワール、シャガール、横山大観などの有名な作家の作品111点が体育館に飾られ、2日間で1万944人の来場者が訪れました。これは、人間国宝美術館と真鶴アートミュージアムが東日本大震災復興支援として美術で日本を元気にしようとした企画です。



「作品を見る生徒の目がいつも以上に輝いていました」と、解説を行った福原中学校教諭・高木いぶ樹先生

学生だけでなく多くの人が美術に親しみ、楽しさを知ってもらいたいと応募しました。



「ピカソと岡本太郎のブースは、中学の美術部の生徒が展示したんですよ」と、田幡先生

18日にはふくはら幼稚園、福原小・中学校の鑑賞会が行われました。「実物は写真で見ると迫力があり、圧倒されました。今度は美術館に行って、いろいろな作品を見てみたいです」と中学3年生の佐藤農也さん。昨秋に美術部を引退した中学3年生の深田実咲さんは「このような素晴らしい作品を自分の中学校で見ることができて感動しました。作品の質感や凹凸がよく分かり思わず触ってみたいくなりました」。田幡先生は「美術には、人の心を豊かにしたり穏やかにする力があります。作品からさまざまなパワーを得てもらえたのではないかと思います」。